

# 新年を迎えるにあたって



一般社団法人中央酪農会議 会長 中 家 徹

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家並びに関係機関の役職員の皆様におかれましては、日頃より、本会議事業への格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、昨年夏に発生した豪雨等により被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、最近の酪農をめぐる情勢を踏まえ、所信の一端を述べさせていただきます。

昨夏は一時的に猛暑の影響を受けたものの、乳用牛が比較的過ごしやすい気温だったことに加え、全国各地でこれまでに取組まれてきた生産基盤維持・強化対策の成果等により、生乳生産量は北海道、都府県ともに前年を上回って好調に推移しました。一方、消費の面では、コロナ禍での緊急事態宣言等の断続的な実施に伴う外食産業や観光業等への影響を背景に、業務用需要の回復が遅れており、飲用牛乳等向け処理量は依然低調となっています。

こうした結果、乳製品在庫が積み増す状況となっており、酪農経営の改善及び新たな政策方向に即した対応への阻害要因となっています。また、今年度末に向け、不要期における処理不可能乳の発生も懸念されており、業界関係者自らが消費促進に励むことが重要となっています。皆様におかれましても、牛乳乳製品の消費拡大への積極的な取組をお願いいたします。

本会におきましては、生産基盤を毀損させないことを前提とした出荷抑制や需要・消費を喚起することで、この難局を乗り切ることが重要なことから、①需給見通しの精緻化と指定団体・全国連間の情報共有、②円滑な広域需給調整と全国の乳製品工場のフル操業による最大限の乳製品処理の実現、③理解醸成活動並びに酪農関係者による牛乳・乳製品の利用拡大運動を通じた需給改善対策を枠組みとして取り組んでおります。

なお、円滑な広域需給調整と全国の乳製品工場のフル操業による最大限の乳製品処理の実現を後押しするため、令和3年11月に開催した本会議の理事会におきまして、需給調整リスクの一部地域の偏在化への対応として年度当初から取り組んでいる「加工リスク平準化緊急対策」の財源に本会正味財産を追加で充当することに加え、同対策で製造された乳製品在庫の保管経費の助成を新たに実施することを決定し、取組を開始しております。

令和4年度におきましても、本会役職員一同、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、今後も酪農家の皆様が、引き続き「誇り」、「やりがい」、「夢」を持てる酪農産業を確立して行けるよう努めてまいります。酪農家及び酪農関係者の皆様方のご支援、ご理解の程、宜しくお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりましてより良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。